の護摩堂料所として櫛比庄二ヶ村の内を寄進す。

【總持寺文書】 鳳至郡 一二九

奉寄進　寶幢院護摩堂料所事

能登國櫛比庄二ヶ村領家一圓

恒友名内

合伍者　宇田ノ谷　又一今次

右件田地者、爲毎月一七ヶ日供料田。然間依爲持者定賢三密修法勤行之仁、彼院限永代所奉寄進此地也。爲本家領家御祈禱現當二世之悉地圓滿、奉宛之上者、限永代不可有相違、仍爲將來明鏡之狀如件。

永仁三年十一月廿一日　　預所　櫻井　在判

（寶幢院は諸岡寺内の一院なるべく、定賢は元亨元年七月廿二日附文書の定賢と同人なるべし。二ヶ村の一邑名たることは天文十五年十月十八日の條參照。）

永仁五年　丁酉　紀元一九五七

二月廿二日。幕府、橘成政に能美郡八幡宮神主職等を安堵せしむ。

【菊大路文書】 山城 一三〇

可令早成政領知加賀國八幡宮神主職（付乃美庄當社領）同敷地付米丸名井得橋郷長恒名内荒木田内畠貳所（富岡畠森畠）佐々木窪田亂橋田水口町田友枝名内屋敷壹所田壹町（坪付載別紙）事

右任親父埴田介成清法師（法名西勝）井母尼妙蓮連署永仁二年九月十七日讓狀、可令領掌之狀、依仰下知如件。

永仁五年二月廿二日　　陸奥守（北條宣時）平朝臣　在判
相模守（北條貞時）平朝臣　在判

（加賀八幡宮とあるものは、能美郡能美莊八幡に在る能美八幡社なるべし。成清の橘氏なることは、弘安元年八月の文書に見えたり。）

正月二十日。沙彌某、加賀郡佐那武社の社務職に關する訴訟を裁決す。

【佐那武社古文類纂】 一三一

（前缺）

弘安元年行信書狀並宮百姓等一數通現在上者、行信迄于弘安元年（脫アラン）。仍覺憲所進建治三年十□□（月下カ）知之事謀書之企無所造（選カ）者哉。加之供僧神官如今年三月十八日起請文一者、重末非覺憲代云々。覺憲不社務（脫アラン）之條勿論也。行意所同（脫アラン）（矣剩相尋カ）欠剩相尋カ）社務有無之處、就行信契狀令社□（務カ）者、何建治三年弘安元年預差符仁不（決カ）加判形哉。行信歸國之時語仁之條無異儀歟。是一。以重末卽加判之條、已行信社務之代官歟。至氏女行意等一者、曾無名字判形上者、何可（脫カ）本主哉。是二。次覺憲所進、安居院殿執事越前法橋重源遣院主信濃阿闍梨、如八月廿七日（不記年號）奉書者、生江氏讓狀有謀書疑者歟。（云々所詮）然者氏女所進文永十年五月日讓狀、爲同前之間非沙汰限歟。是三。凡云覺憲云氏女、經多年伺遷替隙競望之條、造意企太以姧謀也。彼等訴訟永所被棄置也。信直又得重末讓雖令社務、永仁四年八月十日令上表畢。仍當職事爲闕所被選補器量仁、且致造營且可令勤仕御神事已下社役等。仍狀如件。

永仁五年三月廿日　　沙彌　在判

（本文書の沙彌を從來北條貞時とせられたるも非なり。貞時の沙彌となるは正安三年八月なり。）

十一月廿二日。預所某、珠洲郡法住寺に同寺領白山田を安堵せしむ。

【法住寺文書】 珠洲郡 一三二

法住寺衆徒申白山田事、任先例向後更不可有相違、有限御神樂、不可致懈怠之狀、下知如件。

永仁五年十一月廿二日

預所　在判

永仁七年　己亥
正安元年　四月廿五日改元　紀元一九五九

三月五日。龜山法皇、山城南禪寺に加賀郡小坂莊を寄進し給ふ。

【南禪寺文書】 山城 一三三

禪林禪寺起願事